

知的国語科(観点「読む」) 授業デザインシート【1段階】

※指導内容や学習活動を設定するには、児童の興味・関心を十分考慮した上で設定しましょう。

児童名

指導内容・活動例一覧

評価シート

段階	内容	具体的内容の例	学習要素の例	活動例	肢体不自由等、障害の特性に応じた配慮	学習要素の例	評価方法	評価基準	評価		実態把握時の様子
									月	月	
1	○教師と一緒に絵本などを楽しむ。 ○絵本や紙芝居、テレビなどを教師と一緒に見たり、読んでもらったりしながら楽しみ、これらの活動を通して、身近な事物や動物などに興味・関心を広げる。	身近な物の名称の理解(食べ物) ・身の回りにある物の名前に関する知識	・児童の興味・関心の高い物の名称を取り扱う(生活で使う物、食べ物など)。 ・校内や学校の周りを散策しながら、目にした物の名称を教師と一緒に言う。または、教師が言っているのを聞く。 ・「○○さがし」…教室にある物の中から指示された物を見付ける。見付けたらその名前をみんなで言う。 ・「こくご☆」教材「まほうのはこ」「おーい」	・生活経験や言葉でのやりとりなどの経験が少ない場合、児童にとって身近な、目にしたことのある物から取り扱う。 ・学校生活全般を通して、児童が目にした物の名前を教師が言語化してフィードバックすることを心掛ける。	・「おにぎり(おむすび)はどれですか?」と聞き、指さして答えさせる。順不同で、「ハンバーグ」「ケーキ」「バナナ」についても同様に聞く。(図版①)	・身近な物の名称の理解(食べ物) ・身の回りにある物の名前に関する知識	・「おにぎり(おむすび)はどれですか?」と聞き、該当する絵を指さし等で答えさせる。「えんぴつ」「テレビ」「ボール」「コップ」も順不同で聞く。(図版②)	全部できて○、1～3つは△、0は× おにぎり(おむすび) ハンバーグ ケーキ バナナ			
		身近な物の名称の理解(物) ・身の回りにある物の名前に関する知識	・「つくえ」はどれ?と聞き、該当する絵を指さし等で答えさせる。「えんぴつ」「テレビ」「ボール」「コップ」も順不同で聞く。(図版②)	・様々な形に直接触れる経験や教室にある物の形から○△□の物を探し出す活動を行うなど、児童がいろいろな形に興味を持てるようにする。	・図形(○、△、□)カードを提示し、同じ形を○、△、□の中から指さして選ばせる。(図版③)	3つ以上で○、1～2つは△、0は× つくえ えんぴつ テレビ ボール コップ					
		形の弁別 ・線の方向の見分け ・形の類似性と相違性	・いろいろな長さや太さ、種類の線から、同じ線を見付ける。 ・○△□などの形に切った折り紙を教師が1枚ずつ渡し、児童は台紙に描かれた同じ図形の上に貼る。全部貼ると、何かの形になるようなパズルにしておく。 ・「こくご☆」教材「おなじ」	・様々な形に直接触れる経験や教室にある物の形から○△□の物を探し出す活動を行うなど、児童がいろいろな形に興味を持てるようにする。	・図形(○、△、□)カードを提示し、同じ形を○、△、□の中から指さして選ばせる。(図版③)	全部できて○、1～2つは△、0は× ○ △ □					
		動作を表すことば	・「寝る」「食べる」「泣く」などのイラストが書いてある動作カードを使い、動詞を聞いて、複数の児童で取り合うカルタ遊びを行う。 ・一緒に動作を行ったり、絵本の絵や動画などを見たりしながら、その動きを表すことばを確認する。「何している?」と絵を指さして質問したり、児童同士で問題を出し合ったりする。 ・「こくご☆」教材「くまさん くまさん」	・肢体不自由の程度によっては、動作のイメージがつかないことが考えられるので、教師のまねをしながら一緒に動作を行ったり、対象となる動作を行っている動画を見たりするなどの工夫を行う。	・「『食べる』はどれ?」と聞き、該当する絵を指さし等で答えさせる。「飲む」「泳ぐ」「寝る」「座る」「走る」についても順不同で聞く。(図版④)	5つ以上できて○、1～4つは△、0は× 食べる 飲む 泳ぐ 寝る 座る 走る					
		大小理解	・種類が同じで大きさが異なる物を何ペアか準備し、「大きいもの」「小さいもの」に分ける。 ・三種類の大きさのものを用意し、大きいものと中くらいのものを比べて大小を確認したあと、中くらいのものと小さいものを比べて大小を確認する。 ・「こくご☆」の教材「まほうのはこ」	・生活経験の少なさから概念が育ちにくい状況にある場合、学校生活全般において、いろいろな物の大きさを比べる経験ができるよう心掛ける。	・図を見せながら、「大きいのはどっち?」「小さいのはどっち?」と聞く。(図版⑤)	3種類できて○、1～2つは△、0は× ○ △ □					
		身体部位を表すことばの理解 ・身体部位と名称の一致	・「あたまかたひざボン」や「さかながはね」などの遊び歌を歌いながら、該当する身体部分に触れ、名称と部位を一致させる。 ・「福笑い」を行って顔の部分の名称を確認したり、身体部位を取り外せる紙人形を使って、身体部位の名称を確認したりする。また、「右手をちょうだい」などの指示によって、該当する身体部位を教師に渡す活動を行う。 ・「こくご☆」教材「くまさん くまさん」「日生:朝の体操」	・障害の状態によって、自分の身体イメージがつかめていない児童には、手の届く範囲で自分の身体部位を触って確認したり、鏡などで全身を見たりする機会を設ける。	・「首はどこ?」などと聞き、指さして答えさせる。(図版⑥)	10個以上できて○、1～9個は△、0個は× 目・耳・鼻・口・髪・おでこ・首・手・足・お腹・肩・へそ・ひじ・腰					
		色名の理解・色の弁別	・同じ形、同じ材質の色紙を使って、色の名前を確認する。 ・「黄色い○」「赤い○」「緑の○」と同じ種類や形のものを見せ、「どんな○かな?」と言いつつ示して色を確認する。 ・「黄色いバナナ」「緑のバナナ」「黄色いリンゴ」「赤いリンゴ」のカードから指示された色と同じ色のリンゴのカードを選ぶ。 ・「こくご☆」教材「おなじ」	・対象が小さいと見えにくいことも考えられるため、提示するものの大きさを工夫する。また、色覚に問題があるときには、色の見え方に応じた支援を行う。 ・色覚に問題がないかを日頃の生活の様子から把握しておく。	・「指さして教えてね。赤はどれですか?」と聞く。順不同に、「青」「黄」「緑」についても同様に聞く。(図版⑦) ※色覚に問題があることが分かっている場合には行わない。	全部できて○、1～3つは△、0は× 赤 青 黄 緑					
		比較概念	・机の上下に箱を置いておき、宝物をどちらかに入れておく。「宝物は上の箱にあります。」とヒントを出して宝探しを行う。 ・長さの異なる鉛筆を机の上を立てて直接比較する。 ・同じ物の量を変え、「どっちが多い?」「どっちが少ない?」と比較する。	・生活経験の少なさから概念が育ちにくい可能性がある場合、学校生活全般において、「上」に何かあるね。下にはあるかな?」「こっちの方が長いね。」「○の方が多いね」など比較する機会を多く設けるよう心掛ける。	・机の上にいる猫の絵と机の下にいる猫の絵を見せて「机の上(下)にいるのはどちらですか?」と聞く。長い鉛筆と短い鉛筆の絵を見せて「長い(短い)のはどちらですか?」と聞く。皿の上にあるケーキの「多い(少ない)のはどちらですか?」を聞く。(図版⑧)	全部できて○、1～5つは△、0は× 上 下 長 短 多 少					
		用途理解 ・身の回りにある物の用途理解	・「食事のときに使う物」「切るときに使う物」など用途別に分類するゲームを行う。 ・「はさみ」「いす」「えんぴつ」などの絵カードを用意しておき、教師が使い方やジェスチャーしながら「切るときに使うものは何でしょう?」と質問し、児童が絵カードで答える。 【遊び:仲間さがしゲーム】	・生活経験の少なさから使ったことのない道具があることも考えられるため、実際に児童に使わせたり教師が使ったところを見せてたりする。	・物の名称は言わずに、絵を全て指さし確認したあと、「水を飲むときに使うもの」「人が座るときに使うもの」等を聞き、指さして答えさせる。(図版⑨)	6つ以上できて○、1～5つは△、0は× コップ いす はさみ スプーン (色)鉛筆 かさ 歯ブラシ					
		ことばの聞き分け ・音の違いの認知	・「かた」「かさ」のように音の似たことばの絵カードを取るカルタ遊びを行う。 ・教師が二枚の絵(例:「いか」と「いた」を提示しながら「い・か」とはつきり発音し、児童に指さしさせる。聞き取りクイズ形式にして競わせる。 【遊び:簡単な単語の伝言ゲーム】	・似ている音の区別が難しい児童には、イラストや写真などの視覚教材を用意したり、教師がはっきり区別した発音で伝えたりして支援する。	・「かめはどっち?」と教師が聞き、指さしさせる。「いす」も同様に行う。(図版⑩)	両方できて○、片方△ かめとあめ いしといす					
○好きな絵本を自分で探して、読んでもらう。	好きな本を増やす	・季節や行事などに合わせて様々なジャンルの本を読み聞かせする。 ・「こくご☆」教材「くまさん くまさん」	・好きな本が複数ある。(図版なし、日常の行動観察)	あれば○、1冊だけは△、なければ×							
	好きな本を伝える	・いくつかの本の中から視線や指さしなどで選ばせる。 ・「読み聞かせの時間」などを設定し、児童が本を選ぶ活動を定期的に行うようにしたり、児童の手の届くところに本を並べたりして、選ぶことを促す環境を整える。	・複数の本の中から好きな本を選ぶ。(図版なし、日常の行動観察)	選べれば○、選べなければ×、(選び方は問わない)							

【自立活動との関連】《 》各学習要素と自立活動との関連 ●肢体不自由児を対象とした留意点 ◎その他の重複障害についての留意点

《身近な物の名称の理解》障害の状態によって、食形態が普通食以外の場合、普通食が身近ではないことも考えられる。そのため、実物やイラスト、写真、動画などで、普通食の食べ物について理解が図れるようにする。
《形の弁別》自立活動で、型はめや線結びの課題に取り組むなど、関連を図った指導を行う。
《身体部位を表すことばの理解》自立活動の時間に、身体に関わる活動を行うときには、身体部位をタッチしながら部位の名称を確認するなど関連を図った指導を行う。
《好きな本を伝える》意思を伝える手段に課題がある児童には、視線や指さし、VOCAなどの支援機器などを使いながら選べるようにする。
●側わんがあたり、筋力が低下して姿勢を保持することが難しかったりする児童には、座位保持いすやクッションなどを使って、姿勢が保持できるようにする。また、鉛筆やペンを持ちやすいよう握りを太くする、教科書やノートを固定させて見やすくするなどの配慮も必要に応じて行う。
●言語発達の遅れのある場合には、十分にレポートを形成し、話したいという気持ちをくみ取ったり、児童の反応に音声言語や動作で答えたりするようやりとりを多く行うようにする。
●経験不足を補うため、家庭や一人でできないことを学級のみんなや教師と一緒に経験し、充実感や達成感を味わえるように活動を工夫する。
●教材に使用するカードやイラストが多い場合、一部分を注視したり全体を捉えるのが難しかったりすることも考えられるので、カードやイラストを一つ一つ指さして確認する。
◎障害が重度で重複している場合には、「見る」「聴く」「触る」などの活動を取り入れたり、児童の微妙な動きや反応に意味付けたり言語化したりして、やりとりが楽しめるようにする。
◎聴覚に障害がある場合、経験と言葉を結び付けることが困難になりやすいことから、言葉が使われている状況と一致させたり、音声だけでなく身振りを活用したりしながら取り組む。
◎視覚に障害がある場合、視覚的に対象をとらえることが困難なことが多い。このため、立体的な教材を使って触らせたり、触るとその物の名前を言う仕掛けをしたりするなど工夫する。

○:できる △:芽生えがみられる ×:未定着
年度 月 記入者()

学習の履歴		
指導目標	指導内容(取り扱う学習要素)	評価
	(指導内容設定の理由)	

知的国語科(観点「読む」) 授業デザインシート【2段階】

※指導内容や学習活動を設定するには、児童の興味・関心を十分考慮した上で設定しましょう。

児童名

段階	内容	指導内容・活動例一覧			評価シート					
		具体的内容の例	学習要素の例	活動例	肢体不自由等、障害の特性に応じた配慮	学習要素の例	評価方法	評価基準	評価 月 月	実態把握時の様子
2	○文字などに関心をもち、読もうとする。	○自分の名前や身近なものの名前の平仮名、絵本やテレビ、まんがなどに出てくるものの名称や活動を知り、拾い読みなどをして、言葉の数を増やしていく。	単語文字列の意味理解 ・文字列が表している意味を理解する力(例:自分の名前を表す文字列が分かる)	・教室にある物や本人がよく使う物に、平仮名の名前シールを貼っていく。姓名が片仮名の児童の物には、片仮名の名前シールを貼る。 ・複数の児童の写真と平仮名で書かれた名前カードを並べ、渡された名前カードに書かれた文字と見比べて、一致するものの上に置く。 ・児童が知っている教室内の物の名称を文字化したカードを、物に貼っていく。 ・「こくご☆☆」教材「なまえ なーんだ」【日生:朝の会で名前カードを貼る活動を取り入れる】	・斜視があったり、小さい文字だと見えにくさを感じたりする ・生活経験が少ない場合、実際に物を持って「重いー軽い」を実感できるようにしたり、明かりを点けたり消したりして「明るいー暗い」を体験したりするなど体験的な活動を取り入れて理解を図れるようにする。	単語文字列の意味理解 ・文字列が表している意味を理解する力(例:自分の名前を表す文字列が分かる)	・4~5枚のカードの中から平仮名で書かれた自分の姓名を選ばせる(片仮名の場合は片仮名の名前)。(図版なし)	自分の姓名が選べたら△、他を選んだら× ※△に加えて、日常生活において、理解できている単語文字列が一つでもあれば○		
			反対類推 ・共通する概念の中で反対のものを表す語の理解	・例えば「大きい象」と「小さい象」のように、同じもので反対の様子や状態を表す絵カードを用意して、「どっちが大きい?」などと質問する。 ・違いを実感させ、言語化する。 ・「こくご☆☆」教材「くわしく はなそう」…はんたいことば	・生活経験が少ない場合、実際に物を持って「重いー軽い」を実感できるようにしたり、明かりを点けたり消したりして「明るいー暗い」を体験したりするなど体験的な活動を取り入れて理解を図れるようにする。	反対類推 ・共通する概念の中で反対のものを表す語の理解	・「子どもは小さい、大人は?」と聞く。同様に「夏は暑い、冬は?」「朝は明るい、夜は?」「ぞうは重い、ねずみは?」と聞く。(図版なし)	2つ以上で○、1つは△、0は× 大きい 寒い 暗い 軽い		
			前後左右の理解	・「前へ進む。」「後ろへ下がる」など体験的に理解できるような活動を行う。 ・「○マス前に進む」「□マス後ろに下がる」の指示があるところを行う。 ・人形を中心に児童が動いて位置を変え、その位置関係(物の右、左、前、後ろなど)を言語化したり、上下左右に物のイラストが描かれた1枚の絵を提示して「○の右には何かがある?」などと児童同士でクイズを出し合う。	・自分と物との位置関係を把握することに困難がある場合、動作化等、体験的な活動を盛り込むと分かりやすくなる。	前後左右の理解	・「前と後ろのどっちから音が聞こえたか教えてね」と指示し、検査者が子どもの前と後ろに移動して手をたたき、答えさせる。「右手はどっち?」「左手は?」と聞く。(図版なし)	全部できて○、1~3つは△、0は× 前 後ろ 右 左		
			音節分解 ・1文字1音の理解	・絵を見て、描かれている物の名前を言いながら、音の数だけ手をたたいたり、楽器を鳴らしたりする。 ・好きなキャラクターの絵や写真とその名前の文字を提示し、文字を一つずつ読みながら文字の横におはしきを置いていく。二音節→三音節→一音節の順に進める。 ・「木」「花」「机」など1~6までの音数をもつイラストをサイコロにはり、音数ですごろくを行う。 ・「り」がつくものを集めよう→「りす」「りんぐ」「くり」などの絵と平仮名の書いてあるカードを五枚程度並べ、文字の仲間集めをする。簡単にできるようにしたら、枚数を増やす。 ・「しりとり遊び」「逆さことば遊び」「じゃんけんをして一音一歩ずつ前進する遊び」	・手をたたくことが難しい場合は、机をたたいたり、首を縦に振ったりするなど個々に応じたやり方で行う。 ・語頭音、語中音、語尾音を視覚的にとらえにくい場合には、それぞれの文字の色を変えるなど工夫する。 ・教材として使用する単語は、日常会話で使っている単語や興味のあるキャラクターなど児童が確実に理解しているものを用いる。	音節分解 ・1文字1音の理解	・「ねこ」と発音しながら音に合わせて手をたたくことを促す。「つくえ」についても同様に行う。(図版①)	2つできて○、1つは△、できなければ× ねこ つくえ		
			音韻抽出 ・単語を構成する音の理解	・「か」「め」の絵の裏に「か」と書いた絵カードを準備し、「かめの『か』」のように「○●の○」と言いつつ裏返し、文字と読み的一致が図れるようにする。継続的に繰り返し取り組めるようにする。 ・「へび」の「へ」など「へ」の字と蛇の絵を重ねてイメージが持ちやすくなるような教材を用いる。 ・「こくご☆☆」教材「なまえ なーんだ」「ひらがな」	・似た文字の見分けが難しい場合は、異なる部分に色をつけて強調したり、透明な板に文字を書いて重ねたりして、違いに気付けるようにする。	文字の見分け(形の弁別) ・文字の形の認識、区別	・「あ、き、て、の、し、も」の平仮名カードを1枚ずつ提示し、「これと同じのはどれかな?指さしてね。」と聞く。「あ、き、て、の、し、も」から選ばせる。(図版②)	全部できて○、1~5つは△、0は× あ き て の し も		
			文字と読みの一致	・例「かめ」の絵の裏に「か」と書いた絵カードを準備し、「かめの『か』」のように「○●の○」と言いつつ裏返し、文字と読みの一致が図れるようにする。継続的に繰り返し取り組めるようにする。 ・「へび」の「へ」など「へ」の字と蛇の絵を重ねてイメージが持ちやすくなるような教材を用いる。 ・「こくご☆☆」教材「なまえ なーんだ」「ひらがな」	・なるべく正しい発音になるよう指導することが望ましいが、まひなどによって発音が明瞭でないときは、過度の負担にならないよう留意する。 ・将来的に50音表をコミュニケーションツールとして使うなどが考えられる児童は、50音表も扱う。	文字と読みの一致	・「『かめ』の『か』はどれ?」と聞き、「か み の し ひ お も こ う ま」から選ばせる。『みみ』『のみ』『のど』『の』『の』『しお』『の』『し』『ひこぎ』『の』『ひ』『おりがみ』『の』『お』『も』『も』『の』『も』『こめ』『の』『こ』『う』『う』の『う』『ま』『い』『の』『ま』も同様に聞く。(図版③)	10文字できて○、1~9つは△、0は× か み の し ひ お も こ う ま		
			単語の読み ・単語のまとまりで読む力	・単語のまとまりごとにスペースを空けたり、斜線を入れたりした文を音読する。 ・3×3のマスに入った平仮名の中から、隠れている2~3文字の単語を探す。慣れてきたら4×4、5×5マスで同様に行う。最初は縦読み、次に横読み、斜め読みなどと複雑化していく。 ・「こくご☆☆」教材「なまえ なーんだ」「ひらがな」	・生活環境や経験の差によって語彙が少ない場合、イラスト付きの単語カードやタブレットなどを使って、物と文字と一緒に提示するなどして、結びつきやすくなるような工夫を行う。	単語の読み ・単語のまとまりで読む力	・それぞれの名称を平仮名で書いた単語を提示して読ませ、その物の絵を選ばせる。口に出して読めなくても文字を見て選ぶので良い。(図版④)	全部できて○、1~6つは△、0は× いす とり くつ ねこ いぬ とけい つくえ		
			50音の理解	・平仮名一字一字の理解は、「文字と読みの一致」で挙げた活動例を参考にする。 ・「こくご☆☆」教材「ひらがな」…こじゅうおん	・発音が不明瞭な場合、伝えたくても相手に伝わらない場合も考えられる。その際に、補助的に50音表を使い、その利便性を体験する場面を設定することも考えられる。	50音の理解	・50音表中の平仮名をランダムに一文字ずつ指さし、「これはなんと書いてありますか?」と聞く。清音のみ行う。構音障害のある子や発音が難しい子に対しては、「『あ』はどれですか?」と聞き、指さして答えさせる。(図版⑤)	全部読めて○、一部は△、0は× ※読めたものは50音表にチェックしておく		
			濁音、半濁音の読み	・清音の単語と対比させ、音と表記の違いに気付かせる。例:「からすーがらす」「はんーばん」 ・ハ行は半濁音と濁音の両方があるため、「」と「」を色分けして示し、表記の違いに気付かせる。その後、音の違いについて扱う。 ※「じ・ぢ」「ず・づ」はどちらも同じ読み方であることを教える程度にする。 ・「こくご☆☆」教材「ひらがな」…てんでん	・破裂音等は、正しく発音できないこともあるが、本人の発音を認め、「」と「」の表記の違いが分かっているかに着目する。	濁音、半濁音の読み	・濁音20字、半濁音5字を提示し、ランダムに一つずつ指さして「これはなんて書いてある?」と聞く。構音障害のある子や発音が難しい子に対しては、「『は』はどれですか?」と聞き、指さして答えさせる。(図版⑥)	全部読めて○、一部は△、0は×		
			短い文(二語文)の理解 ・二語文の内容理解	・二~三語文の多い絵本や教材を教師と一緒に読む。最初は拾い読みでも良いが、単語を意識させて徐々にスムーズに読めるようにする。 ・文節ごとに補助線を入れたり、スペースを設けたりするなど、読みやすくなるよう工夫する。 ・文に出てくる人や物、場面などについて簡単な質問をしたり、一緒に確認したりして理解を促す。 ・「こくご☆☆」教材「くわしく はなそう」…なにを するのかな①②	・語をまとまりで読めない場合は、「単語文字列の意味理解」や「単語の読み」の学習活動と関連させて、授業を組み立てるなどの工夫を行う。	短い文(二語文)の理解 ・二語文の内容理解	・「いぬが およぐ」という文を音読させる。読み終わったら、「それはどの絵かな?」とふざわしい絵を選ばせる。(図版⑦-1)	読めて正しい絵を選べば○(拾い読みも○)、読めて絵を間違えたら△、読めないのは×		
			短い文(三語文)の理解 ・三語文の内容理解	・「お父さんがりんごを食べる。」「お父さんとりんごを食べる。」のように、助詞によって意味が変わる文とイラストを複数準備しておき、文を読んでその意味に合うイラストを選ぶ。 【「書く」内容】「りんご」「くだものです。」の間に入るのに適切な助詞カードを選ぶ。各カードの接続部分をパスルのように切っておき、正しいとびつたりくつつくようにするなど視覚的に理解できるようにする。意味理解を促す「読む」活動を十分行った後、このような「書く」内容について取り扱うことで、理解が深まる。 ・「こくご☆☆」の教材「くわしく はなそう」…「わ」と「は」	・助詞に注目しやすくなるよう、助詞の背景を色付けしたり助詞だけ色を変えたりするなどの工夫を行う。	短い文(三語文)の理解 ・三語文の内容理解	・「ぼくは いぬと はした」の文を音読させる。読み終わったら「それはどの絵かな?」とふざわしい絵を選ばせる。(図版⑦-2)	読めて正しい絵を選べば○(拾い読みも○)、読めて絵を間違えたら△、読めないのは×		
			助詞の理解 ・「が」「も」「で」「を」「と」を含む文の意味理解 ・「は」、「を」、「へ」の用法	・「お父さんがりんごを食べる。」「お父さんとりんごを食べる。」のように、助詞によって意味が変わる文とイラストを複数準備しておき、文を読んでその意味に合うイラストを選ぶ。 【「書く」内容】「りんご」「くだものです。」の間に入るのに適切な助詞カードを選ぶ。各カードの接続部分をパスルのように切っておき、正しいとびつたりくつつくようにするなど視覚的に理解できるようにする。意味理解を促す「読む」活動を十分行った後、このような「書く」内容について取り扱うことで、理解が深まる。 ・「こくご☆☆」の教材「くわしく はなそう」…「わ」と「は」	・助詞に注目しやすくなるよう、助詞の背景を色付けしたり助詞だけ色を変えたりするなどの工夫を行う。	助詞の理解 ・「が」「も」「で」「を」「と」を含む文の意味理解 ・「は」、「を」、「へ」の用法	・助詞を使った文を読ませて、その文が表している絵を選ばせる。(図版⑧)	全部できて○、1~2つは△、0は× おとこのこの てを あげる おかあさんと のむ いぬも かえる		
○日常生活で目に触れるいろいろなシンボルマークや簡単な表示などの特徴が分かり、これらへの関心や読もうとする意欲を育てる。	信号の理解 日常生活で目にするマークの理解	・車いすで歩道を移動するなどの経験が少ないことが予想されるため、信号のルールを説明したり、体験的な場面を設定したりする。 ・児童にとって身近だと思われるマークを選ぶ。また、お天気マークなど学校生活の中にも取り入れる。	信号の理解 日常生活で目にするマークの理解	・赤と青の歩行者用信号を提示し、「横断歩道を渡っていいのはどちらのときですか?」と聞く。「渡らずに待っていないといけないのはどちらですか?」とも聞く。(図版⑨)	赤と青が分かれば○、どちらか1つは△、どちらも分からないのは× 赤 青					
				日常生活で目にするマークの理解	・日常生活で目に触れるシンボルマーク(図版では「エレベーター」「バス」「レストラン」)を提示し、「これはなんのマークですか?」と聞く。(図版⑩)	2つ以上分かれば○、1つは△、0は× エレベーター バス レストラン				

○:できる △:芽生えがみられる ×:未定着

年度 月 記入者()

【自立活動との関連】《 》各学習要素と自立活動との関連 ●肢体不自由児を対象とした留意点 ◎その他の重複障害についての留意点

《50音の理解》内言語や言葉の理解には困難がないが、話し言葉が不明瞭であったり短い言葉伝えるのに相当な時間がかかったりする場合には、将来、文字や50音表をコミュニケーション手段として選択・活用できるよう、自立活動との関連を図る必要が考えられる。
●側わんがあったり、筋力が低下して姿勢を保持することが難しかったりする児童には、座位保持いすやクッションなどを使って、姿勢が保持できるようにする。また、鉛筆やペンを持ちやすいよう握りを太くする、教科書やノートを固定させて見やすくするなどの配慮も必要に応じて行う。
●◎言語の受容に関しては、障害の状態や発達の段階等に応じて、身振りや表情、指示、具体物の提示等非言語的な方法を用いる必要がある場合もある。

学習の履歴

指導目標	指導内容(取り扱う学習要素)	評価
	(指導内容設定の理由)	

知的国語科(観点「読む」) 授業デザインシート【3段階】

※指導内容や学習活動を設定する際には、児童の興味・関心を十分考慮した上で設定しましょう。

児童名

段階	内容	指導内容・活動例一覧				評価シート				
		具体的内容例	学習要素の例	活動例	肢体不自由等、障害の特性に応じた配慮	学習要素の例	評価方法	評価基準	評価 月 月	実態把握時の様子
3	○やさしい物語文の登場人物や話の後関係をとらえる。 簡単な語句や短い文などを正しく読む。	三文程度の文章の音読 ・文節や文を一つのまとまりとして読む力	・語や文節のまとまりが分かりやすい俳句などの定型詩やわらべ歌、短い詩など一文が短く、リズムの良い文章を音読する。早口言葉や回文を音読する。 ・文節と文節の間にスペースを設けたり、斜線を入れてしりとりして、文を区切りに合わせて読む。 ・読む前に文章中に出てくる単語をいくつか取り出し、意味と読みを確認しておく。 ・児童が読むときに次の語句を予想できるよう、最初に教師が範読する。一斉に読む、円形になって読む、一人一文をリレーしながら読むなど読みの形式を工夫する。 ・「こくご☆☆☆」教材 「すきな うた」「のりもの」「むし」「はな」	・行をとばして読んでしまう場合、行間を広くしたり、読んでいる行以外を隠す補助シート(スリット入りシートなど)を活用したりする。 ・音読の経験が少ない児童の場合、初めて目にする文章だと拾い読みになってしまうなど自信が持てない様子が見られることがある。そのため、児童の興味・関心に沿った教材文を準備し、教師や友達と交互に読みたり、役割を決めて読みたりするなど楽しみながら何度も繰り返し読む経験を積む。	・三文程度の文章の音読 ・文節や文を一つのまとまりとして読む力	・三文程度の文章を読ませる。 補助教材「ひこうき」《図版①》	文字や語句をとばさずにスムーズに読めれば○、拾い読みは△、文字や語句、行をとばすなど正しく読めないときは×			
		簡単な説明文の読み取り ・短い文章の音読 ・テーマの理解	・文章を文単位に分けて、書かれている内容を読み取り、各文のキーワードに印をつけておく。最後にパラパラになっている文を話の流れに沿って並べ、文章を完成させる。 ・「それから」「～ので、○○。」「～から、○○。」「けれども」などの言葉を用いた文を扱い、話の前後関係を捉える。 ・扱われている動物や植物、乗り物などの特徴が書かれているところに線を引いたり、○で囲んだりして、友達と確認し合う。 ・児童の興味・関心に沿った、身近な動物や虫、乗り物などについて簡単に説明した文を扱う。文章に関わる写真やイラスト、挿絵などを用いて理解を高める。 ・「こくご☆☆☆」教材 「のりもの」「むし」「はな」「かじ」	・文の数が增えるに従って、読み取りが難しくなる場合は、スリット入りシートで部分的に読むことができるようにしたり、一文ずつ取り出して読めるような教材を作成したりするなどの支援を行う。	簡単な説明文の読み取り ・短い文章の音読 ・テーマの理解	・文章に出てきた内容に関する簡単な質問をする。補助教材であれば、「どんな乗り物が出てきましたか?」「ひこうきは人や何を運びますか?」と聞く。《図版①》	①「ひこうき」②「にもつ」と答えれば○、片方だけ正解は△、両方不正解は×			
		話の順序性 ・話の順序性や場面転換の理解	・原因と結果を絵で示したものを一緒に見て、順番について話し合う。 ・四コマまんがを一度読んだ後、パラパラにして、それを正しく並べ直す。 ・好きな絵本で紙芝居を作る。場面をいくつか選んで絵を描き、順番に並べて話す。 ・「こくご☆☆☆」教材 「おじいさんと ねずみの おはなし」	・原因と結果の理解が難しい児童には、文の最初に「はじめに」「次に」「さいごに」など、順番の手掛かりになるような語を付けた文章を教材として扱ったりするなどの工夫を行う。	話の順序性 ・話の順序性や場面転換の理解	・3文程度の文を読ませて、書いてある順に絵を並べさせる。《図版②》	実施者から見て△☆□(カードに書かれた記号)の順に並べられたら○、1枚間違えたら△、2枚以上間違えたら×			
		短い物語文の読み取り ・登場人物の理解 ・場面の理解 ・あらすじの読み取り	・教師の範読を聞き、おおよそをつかんでおく。 ・文章を文単位に分けて、書かれている内容を読み取り、各文のキーワードに印をつけておく。最後にパラパラになっている文を話の流れに沿って並べ、文章を完成させる。 ・登場人物の絵を提示し、その周囲に名前や文中に書かれている特徴を書き加えていく。 ・あらすじや場面の順序性を理解するため、ペーパーサートなどを作成して劇化したり、挿絵を並べかえたりする。 ・登場人物の行動を動作化し、書かれている心情を実感させたり、気持ちを想像したりする。 ・「いつ」「だれが」「どこで」「どのように」「なにをした」という観点で、場面ごとにまとめる。 ・「こくご☆☆☆」の教材 「おじいさんと ねずみの おはなし」「プレーメンの まちの おはなし」	・文の数が增えるに従って、読み取りが難しくなる場合は、スリット入りシートで部分的に読むことができるようにしたり、一文ずつ取り出して読めるような教材を作成したりするなどの支援を行う。 ・場面の理解には、生活経験等が関係するため、補足説明をしたり、ロールプレイや動作化する場面を設定したり、児童同士の意見の交流する場を設定したりするなどの工夫を行う。	短い物語文の読み取り ・登場人物の理解 ・場面の理解 ・あらすじの読み取り	・「ありと はと」の文章を読ませ、「どんな虫や動物が出てきましたか?」と聞く。《図版③》 ・「ありと はと」の文章を読ませたあと、「ありはどうして困っていましたか?」と聞く。《図版③》 ・「ありと はと」の文章を読ませたあと、「どんなお話でしたか?」と聞く。《図版③》	「あり」「はと」と答えれば○、片方は△、不正解は×	「池に落ちてしまった」という内容で答えれば○、「池。」など説明が足りないのは△、発問の意図を理解していなかったり答えられなかったりしたら×		
	○絵本ややさしい読み物、テレビやコンピュータ画面に出てくる促音、長音等の含まれた語句や短い文、平仮名や片仮名、児童が身近に見られる簡単な漢字を読む。	拗音、促音の読み	・「き」のカードと「き」よりも小さい「や」のカードを左右に離して提示し、「キ」「ヤ」と繰り返し発音しながら二つのカードを近づけていく。二つのカードを合体させて「きや」を作ってみせ、「キヤ」の文字と読みについて、視覚・聴覚の両方で意識できるようにする。 ・「きやべつ」を「きや・べつ」と分解し、1音ずつ手をたたかなど、拗音、促音についても音節分解を行う。 ・拗音、促音を使った詩や童謡の歌詞に出てくる拗音、促音を含む単語を抜き出して読む。単語単位で正しく読めるようになったら、文で読む。 ・「こくご☆☆☆」教材 「すきな うた」「ひらがなを よもう」※小学校1年の教科書にも教材あり	・言語が不明瞭な場合であっても、本人の読もうとする意思を尊重して受け取り、「そう、○○だね。」と正しい読みを返していく。 ・拗音の場合、「しや」「しや」の大きさの違いがとらえにくい児童もいるため、「し」と「や」のフォントサイズを極端に変えたり、色を変えて強調したりする。また、同じ大きさに見えたとしても文脈から判断できるように、語彙力を高めることも大切にする。 ・拗音、促音など特別な読み方をものについては、定着するまでに時間がかかることも考えられるため、毎時間の始めに帯学習で扱うなどの工夫を行う。	拗音、促音の読み	・「しやつ」「ねっこ」「しやつり」など拗音、促音を含む単語を読ませる。《図版④-1》	3つとも正しく読めれば○、1～2つは△、0は×			
		長音、拗長音の読み	・「おとうさん」「おかあさん」「じゅうえん」「りょうがえ」など長音、拗長音を使った身近な言葉を出し合って、みんなで読む。 ・「こくご☆☆☆」教材 「ひらがなを よもう」※小学校1年の教科書にも教材あり ※「じ・ち」「ず・つ」の用途については、この段階で扱う。		長音、拗長音の読み	・「おかあさん」「おにいさん」「じゅうえん」など長音、拗長音を含む単語を読ませる。《図版④-2》	3つとも正しく読めれば○、1～2つは△、0は×	しゃつ ねっこ しやつり		
		片仮名の読み ・片仮名文字と音の一致 ・片仮名単語の読み (清音、濁音、半濁音、促音、拗音、長音、拗長音)	・絵と片仮名で表した動物や物のカードの文字を教師と一緒に読む。 ・平仮名と片仮名のカードで神経衰弱を行う。 ・片仮名で表された単語をみんなで探して集め、短冊に教師が書いたり児童が書いたりしたものを模造紙に貼って掲示しておく。なるべく多くの片仮名が例示できるようにする。 ・片仮名表記の単語については、児童がよく口にする言葉や日常生活の中でよく目にするもの(コンビニエンスストアやスーパーの名前、テレビ番組やアニメなどで使われている言葉)、好きなキャラクターなど、児童の興味・関心や実態に応じたものを取り扱うよう心掛ける。 ・「こくご☆☆☆」教材「かたかなを よもう」「かたかなを さがそう」「プレゼントは ななに」	・「う」と「ウ」、「か」と「カ」、「せ」と「セ」など平仮名と片仮名の表記が似ている文字は、文字を大きくしたり、色を変えたりするなど、違いが分かりやすくなるよう工夫を行う。	片仮名の読み ・片仮名文字と音の一致 ・片仮名単語の読み (清音、濁音、半濁音、促音、拗音、長音、拗長音)	片仮名カードを1字ずつ提示し、「これと同じ音の平仮名はどれですか?」と聞く。《図版⑤》 ・「ハム」「バス」「パンダ」など清音、濁音、半濁音を含む単語を一つずつ指さして、「これはなんと読みますか?」と聞く。《図版⑤》 ・「トラック」「シャツ」「ラーメン」「フォーク」など促音、拗音、長音、拗長音を含む単語を一つずつ指さして、「これはなんと読みますか?」と聞く。《図版⑤》	全部できて○、1～4つは△、0は× ウ コ セ チ ノ 全部できて○、1～2つは△、0は× ハム バス パンダ 全部できて○、1～3つは△、0は× トラック シャツ ラーメン フォーク			
		身近な漢字の読み ・自分の名前や生活の中でよく目にする漢字の読み	・自分の名前、曜日、漢数字、教科名など身近な漢字の読みを学習する。曜日、漢数字、教科名などは朝の会や帰りの会で毎日読む活動を取り入れ、日常的に漢字に触れる環境を整える。 ・関連して自分の名前を構成する漢字の読みを学習する。 ・「こくご☆☆☆」教材 「かんじで かこう」※「書」の教材であるが、「読む」活動として取り扱う	・「森」や「林」など部分が似ている漢字は見分けがつきにくいこともあるため、部分に分けて、その違いに着目させる。 ・漢字を構成する部分を既習の片仮名として捉える児童もいるため、捉え方に応じた指導を考慮する。	身近な漢字の読み ・自分の名前や生活の中でよく目にする漢字の読み	・漢字で書かれた自分の名前、教科名(国語、算数、音楽、体育、図工)、漢数字、曜日を表す漢字などを提示し、「この中から読めるものを選んで指さして読んでください」と教示する。《図版⑥》	3つ読めれば○、1～2つは△、0は×			
	○「入り口」、「出口」、「非常口」、「立ち入り禁止」などの簡単な表示や標識の意味が分かる。	簡単な表示の意味理解	・校外学習や交通安全教室等の際に、標識・表示の意味や表している内容に沿った適切な行動について考えさせる。 ・生活面で必要な標識と、身の安全を守るために必要な標識を取り扱う。 ・「こくご☆☆☆」教材 「いろいろな しるし」 【遊び:オリエンテーリング】【生単:校外散策、校外学習事前学習など】	・生活経験が少ないことで理解が高まっていない場合、体験的に学習したり、知識を活用する具体的な場面を設定したりするなど工夫を行う。	簡単な表示の意味理解	・「一時停止(止まれ)」「横断歩道あり」「横断禁止」など身近な道路標識の意味を聞く。《図版⑦》	全部できて○、1～2つは△、0は× 一時停止 横断歩道あり 横断禁止 ※説明が十分でなくとも、意味が合っていれば良いこととする。			
		道路標識の意味理解			道路標識の意味理解	「このマークはどんなマーク?(どんな意味?)」と聞く。「出口」「非常口」「立入禁止」も同様聞く。《図版⑧》	全部できて○、1～3つは△、0は× 入口 出口 非常口 立入禁止 ※説明が十分でなくとも、意味が合っていれば良いこととする。			

【自立活動との関連】《 》各学習要素と自立活動との関連 ●肢体不自由児を対象とした留意点 ◎その他の重複障害についての留意点

- 児童の姿勢や動作の状態に応じて補助的手段(座位保持具、車いす用机など)を活用したり、鉛筆やペンを持ちやすいよう握りを太くしたり、ノートを机上に固定する装置を使ったりすると良い。教科書等を使用して学習する場合は、児童の見え方の実態に応じて、文字の大きさや行間の幅などを工夫したり、書見台を用いて良い姿勢で読めるような支援が必要である。
- ◎言語の受容に関しては、障害の状態や発達の段階等に応じて、身振りや表情、指示、具体物の提示等非言語的な方法を用いる必要がある場合もある。

年度 月 記入者()

学習の履歴		
指導目標	指導内容(取り扱う学習要素)	評価
	(指導内容設定の理由)	